

## 認定農業者のご意見・ご要望をおうかがいします

当JAでは、常勤役員らが認定農業者を訪問し、農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化など当JAが実践する自己改革について、皆さまからご意見、ご要望をおうかがいしています。

常勤役員と本店・現場の実務者が農産物販売事業の取り組みや営農指導員の活動などに対する意見を交換し、役職員が生産現場の声を直接聞くことで管内農業の現状を把握し、今後のJA事業に反映します。

平成29年度から実施し、今年度は1月中旬から管内認定農業者315人の方を対象に訪問を予定しています。貴重な時間をいただきますが、なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、平成30年度のご意見・ご要望は以下の通りです(一部抜粋)。



### ▶ 営農指導について

- 営農指導員は適時に訪問してくれるので、安心感がある。
- JAの取り組みや認定農業者への伝達事項など、情報提供のスピードが遅い。

### ▶ 生産資材価格について

- ホームセンターより高い物もあるが、品質や製造工程は信頼できる。また、配送や営農指導もあるのでメリットが多い。
- チラシの配布だけでなく、実際に農家を訪問し、どのような肥料が必要なのか土壌分析をして、的確な肥料設計をしてほしい。

### ▶ 販路拡大について

- 旬彩蔵の売上によって生産意欲が向上するので、今後も出荷したい。
- 旬彩蔵の店舗間で連携強化を図ってほしい。

### ▶ その他

- ふれあい農園を通じ、地域とのつながりが出てきている。今後も活動を続けていただきたい。
- JAと農家の関係性が年々改善されている。見直すべき点はまだまだあるが、現在の取り組みを今後も継続し、地域農業が発展していくことを期待する。

## 農作業ひとくちメモ

### 夏野菜の苗を育てるコツ

2～3月は夏野菜の種まきシーズンです。トマトやナス、ピーマンの育苗期間は、種まきしてから65～70日、キュウリ、カボチャ、メロンは40～50日ほどかかります。いずれも発芽には30℃ほどの温度が必要となるので、ハウスやトンネル、温床マット(農電園芸マットなど)を用いて温度管理をしましょう。

夏野菜の育苗で一番失敗しやすい原因は、種まきしてから発芽までの間に水をやりすぎてしまうことです。種をまいた後に何度も水をやると、ほぼ浸水状態になってしまいます。これでは土壌内の酸素が不足して発芽不良を起こしてしまうので、発芽に必要な最低限の水だけをやり、被覆して乾燥を防ぎましょう。それ以降は、発芽するまで水をやらないことがコツです。発芽したら被覆を外し、土の表面が乾いたときに、葉にかからないよう水をやりましょう。

